

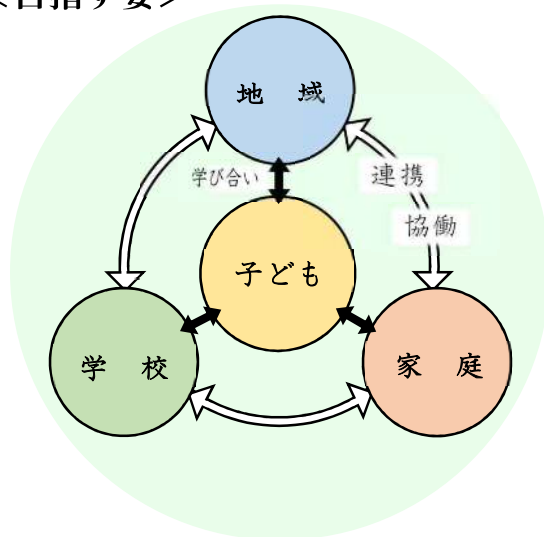
下呂市教育大綱 (令和4年度～令和6年度)

<基本理念> 生きる力や豊かな文化を育みます

大人も子どもも互いに教え学び合い、生涯を通して学び続けることで、社会の変化に適応し、現在と未来をたくましく生きる力を身に付けます。

また、社会を支える地域・家庭・学校などの様々な主体が連携・協働し、下呂市の自然や歴史など豊富な教育資源をもとに豊かな文化を育むことで、誰もがいきいきと暮らせるまちを目指します。

<目指す姿>



《子ども》

地域と触れ合うなかでふるさとへの誇りを持ち、自ら学び、考え、行動できる「子ども」

《地域》

様々な人が関わりを持ち、共に課題に取り組むことで絆を深め、喜びを共有できる「地域」

《家庭》

家族としての責任を自覚し、地域から多様な見方や考え方を学びつつ共に成長し、心豊かに暮らせる「家庭」

《学校》

社会に開かれ、生きるための確かな力を育む学び舎となることで、未来を担う子どもたちの笑顔があふれる「学校」

<基本方針>

《学校教育》挑戦を繰り返し、自らの個性を磨くことができる子どもを育みます

- ・教員の資質向上のため、指導員の配置や教職員研修の充実を図ります。
- ・ICTの活用をはじめとした学習環境の整備を進めます。
- ・子どもたちの安心・安全な学校生活を守るため、計画的に施設整備を行います。

《社会教育・家庭教育》自らの学びをみんなの楽しみや学びの力に変えていける人づくりを推進します

- ・地域学校協働活動を通じ、下呂市の担い手づくりと地域の活性化を図ります。
- ・生涯学習の充実により、幅広い世代に対してライフステージに応じた学習機会を提供します。
- ・図書館の機能とサービスを向上させ、誰でも気軽に学習できる環境づくりに取り組みます。
- ・保護者の学びの機会やつながりを生み出す家庭教育支援の充実を図ります。

《文化芸術・歴史・文化財》ふるさとの伝統文化・芸術・歴史を次世代へ継承し、未来へ伝える地域の宝を守ります

- ・文化芸術活動に取り組む団体を包括的に支援し、地域文化の持続的発展に努めます。
- ・博物館施設の活用やふるさと歴史講座などを通じ、市民が地域の歴史文化に親しむ環境を整えます。
- ・市民の文化財保護意識を高め、文化財の保存活用を図ります。

《スポーツ》スポーツが持つ力を最大限に発揮して、楽しく、健康で活力ある地域を目指します

- ・競技だけでなく、生涯を通じた全てのスポーツ活動を推進するための新たな体制づくりを行います。
- ・誰もが生涯にわたり楽しくスポーツができるよう、総合型地域スポーツクラブの活動を支援します。
- ・休日部活動の地域移行に向け、活動場所の確保と健全で高い技術指導が受けられる環境を作ります。

「下呂市教育大綱」の策定にあたって

＜基本理念＞について

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化や、デジタル革新・イノベーションを最大限活用して実現するとされる日本の未来社会「Society5.0」など、現代の社会は急速に変化しつつあります。今、「生きる力」を学び身に付けるべき主体は「子ども」だけではなく、こうした社会に的確に対応していくため、「大人」も同様に生涯を通じて学び続けることが求められています。下呂市には、歴代の教育長の間に次のような言葉が引き継がれています。

“間違いだらけの教師が間違いだらけの子どもを教える。それが教育だ。間違いの自覚がない教師は間違いを繰り返す。間違いを自覚する教師は絶えず学び続ける。間違いの自覚が尊敬される教師へと誘う”

この言葉は、児童生徒の前に立つ教師としての心構えを示したものであり、常に学び続けることが教育に携わる者に求められているということ、また、子どもの間違いという人間形成の重要な過程に教師は心して正対し、子どもにどんどん挑戦させ、一人ひとりが秘めた可能性を引き出してあげたいという思いが込められています。

こうしたことは、学校における教師と子どもの関係だけでなく、広く大人と子ども全般に当てはまることでもあります。これまで一般的に、「学び(教育)」＝「学校」という見方が強くありましたが、これからの時代、教育は学校だけで成し得るものではなく、豊かな学びのためには、社会を支える様々な主体がそれぞれの役割のもとで連携・協働していく必要があります。下呂市には他に誇るべき豊かな自然や長い歴史、伝統文化があります。こうした豊富な教育資源を背景に、地域、家庭、学校などがともに力を合わせて豊かな文化を育むことで、市民の誰もがいきいきと暮らせるまちを目指していきたい。今回の基本理念には、そうした思いが込められています。

＜目指す姿＞について

基本理念に基づき、《子ども》、《地域》、《家庭》、《学校》が目指す方向性を記載し、これらの関係性を、下呂市の豊かな自然や歴史などの豊富な教育資源を背景として、子どもと大人(地域、家庭、学校)が相互に学び合い、連携・協働する姿として図示しています。

- 《子ども》 地域・家庭・学校との触れ合い・学習を通じて様々な体験をすることで、次第にふるさとを誇りに思う心を培い、たくましく生きていくために最も基本となる「自ら学び、考え、行動する力」を身に付けてほしいという願いを込めています。
- 《地域》 個を大切にす風潮が高まる昨今、自分のことだけを考えるのではなく、様々な人と関わり・つながりを築き、ともに地域を取り巻く課題に取り組むことで互いに絆を深め、その結果生まれる喜びや達成感を共有できる地域になってほしいという願いを込めています。
- 《家庭》 子どもの保護者や家族としての責任や役割を自覚し、同じく個を大切にす風潮が高まるなかにあっても、地域社会と触れ合うことで多様な見方や考え方を学び、結果として心豊かに暮らせる家庭になってほしいという願いを込めています。
- 《学校》 地域・家庭に対して積極的に働きかける開かれた学校として、生きるための確かな力を身に付けさせるといふ、学校としての本来の役割をしっかりと果たしながら、子どもたちにとって楽しく、笑顔になれる場となることを目指すという意味を込めています。

＜基本方針＞について

「基本方針」は、教育大綱の基本理念の実現に向けて、市が行う各種施策の方針を示すものです。《学校教育》、《社会教育・家庭教育》、《文化芸術、歴史・文化財》、《スポーツ》の4つの基本方針を柱とし、その柱のもとで具体的に取り組んでいく施策を記載しています。

一つひとつの事業をここで詳しく説明することはしませんが、それぞれの取り組みについては、毎年度、市として取り組んだ成果や効果等を検証し、必要に応じて見直しを行う、計画(Plan)、実行(Do)、検証(Check)、改善(Action)の、いわゆるPDCAサイクルにより、よりよい取り組みを模索しながら着実に推進していくこととしています。